

## 糖尿病と心臓のお話

---

日本の糖尿病患者数は、生活習慣と社会環境の変化に伴って急速に増加しています。糖尿病はひとたび発症すると治癒することはなく、放置すると網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、末期には失明したり透析治療が必要となることがあります。

糖尿病患者さんは、そうでない方に比べて平均寿命が10年程度短いことが知られており、死因の大きな要因として心血管合併症があげられます。

心臓を栄養する冠状動脈という重要な血管が糖尿病の影響により血管内腔に脂の固まり(粥腫といいます)が形成され、結果冠状動脈の血流が滞ったり途絶したりするなどして狭心症や心筋梗塞といった病気を生じ、生命が危険にさらされるのです。

また、長らく糖尿病を患っていると、血管内腔のみでなく冠状動脈自体が徐々に細くなり血流に支障が出る場合もあります。

糖尿病による冠状動脈の病気の特徴としては、

- ① 狭心症や心筋梗塞を発症しても胸痛や胸部不快感などの症状が出ないことがある
  - ② 心臓の血管が同時に何本も広い範囲で障害されていることが多い
  - ③ その結果、治療開始が遅れたり・病変が多く長いために治療が難しいことがある
  - ④ 腎機能低下を合併されている率が高く、治療に必要な造影剤の使用が制限されたり使用できない場合がある
  - ⑤ 心臓の血液を送り出す力が低下しやすく、心筋梗塞後の死亡率も高い
- などがあります。

治療は薬剤治療・カテーテル治療・外科手術がありますが、年齢や症状・血管の状態や腎臓の機能等により総合的に判断して行っていきます。

心筋梗塞で搬送されてきた患者さんに尋ねると、“糖尿病の気があると言われていたんだよね”と話されることも少なくないのですが、実際血液検査をしてみると完全な糖尿病になっていたという場合も多く見受けられます。

最近の糖尿病治療薬の進歩は目覚ましいものがあり、食事・運動療法も含め早期に治療を開始することで合併症を生じる可能性を低く抑えられます。

一度でも糖尿病の可能性を指摘された方はお近くのお医者さんで検査をお受けになることをお勧め致します。

すでに糖尿病と診断されている方は、少しでも胸の症状があるようなら主治医の先生にご相談頂き、早めに精密検査をお受けになることが宜しいかと思えます。

【循環器内科診療部長 村岡 理人】

